

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン枠事業レビューシート

学校名	岡山県立玉島商業高等学校
事業名	ノンストップ玉翔プロジェクト
事業の必要性・テーマ	<p>本校は、倉敷市玉島地区にあり、地域から学び、学んだことを地域に還元できる人材育成を目標としている。数年来、地域と連携した活動を行っており、地域からの信頼も得ている。また、平成25年度は、授業に携帯情報端末を取り入れ、生徒の学びへの興味関心を向上させるとともに、コミュニケーションツールとしての利用も試みてきた。</p> <p>平成25年度の取組を通じて出てきた課題を克服すべく、ICTを活用した次の事業を計画しており、テーマは以下の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域との連携にとどまることなく、地域そのものを学習教材とすること</li> <li>2 ICTを活用して教材を作成し、それをデータベース化すること             <ol style="list-style-type: none"> <li>①ドリル型、フラッシュ型の教材を作成し知識の定着を図ること、学び合うこと</li> <li>②各教科等で地域を題材とした学習を実践すること</li> </ol> </li> <li>3 生徒が地域活性化のための事業をプロデュースすることにより、課題解決能力を身につけること この事業を通して、生徒の学力向上はもとより、地域が活性化し、ひいては生徒の進路保障に繋がると考えられる。生徒、教師、地域三者それぞれのWin-Win-Win関係をねらっている。</li> </ol>
事業の概要・進め方	<p>※携帯情報端末を次の3つの事業で効果的に活用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域との連携             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)地域の子どもたちとの連携 出前講座や親子ふれあい教室の実施 夏休み親子ふれあい教室に外部講師を招き、玉島の特産品である「だるま」を作成</li> <li>(2)地域の企業(商店街)との連携 商品開発・販売促進・販売実習等の実施</li> <li>(3)地域の住民との連携 生徒が地域のコミュニティに参加し、プロデュースする市民行事の実施</li> </ol> </li> <li>2 ICT(携帯情報端末)を活用した学習の研究・実践 ※教員・生徒の双方向型学習をめざす。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「ドリル学習」 各教科において、基礎基本の定着を図るため、必要と思われるものに対してドリル学習型教材を作成し、生徒一人ひとりの能力や特性に応じた学びを実現する(質の高い個別学習が可能)。 7月 外部講師を招き、ICT及び専用ソフトの活用方法について指導助言を受ける。</li> <li>(2)「学び合い」 調べ学習やグループディスカッションで有効活用する。</li> </ol> </li> <li>3 地域教材の開発・活用 各教科で地域の教育資源を生かした教材の開発・活用 11月 研究授業にて外部講師を招き、指導助言を受ける。</li> </ol>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域との連携 生徒が主体的に地域活性化のための事業をプロデュースすることにより、自分たちが地域貢献をしているという自信を持つとともに、地域のリーダーになるという自覚を持つようになる。この事業後のアンケートにより、「生徒が自信や自覚を持てるようになった」を80%以上にする。</li> <li>2 ICT(携帯情報端末)を活用した学習の研究・実践 教員 ICT活用率の向上→「平成25年度教員のICT活用指導力」予備調査結果のA92.9% B88.3%を両方とも95%以上にする。 生徒 全商情報処理検定1級合格率の増加→34.8%を45.0%以上にする。</li> <li>3 地域教材の開発・活用 生徒が地域教材を活用した学習により、地域の問題に関わり、生徒・地域・教員と協働することを通して、地域に愛着を持つようになる。この事業後のアンケートにより、「生徒が地域のことをよく知ることができ、地域に愛着が持てるようになった」を80%以上にする。</li> </ol>

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン枠事業レビューシート

実績と成果 (目標の達成 状況を含む。)	「ICT機器を活用した基礎学力の向上のための教材研究と開発」という研究主題で、途中計画を見直ししながら、研究を進めてきた。その中で、ICT機器の利活用や授業改善等の教員研修を計画し、実施したことは、「平成26年度教員のICT活用指導力」調査において、項目Aで、97.7% (H25末92.9%) 項目Bで、90.7% (H25末88.3%) であった。また、iPadの「利用者数」は昨年度に比べ160%増、「利用回数」は138%増となり、学校全体で事業推進の輪が確実に広がってきた。	事業 達成率	90%
	「学習・生活状況調査」の1回目と2回目を比較して見ると、顕著な成果が得られたとは言いがたい状況であった。しかし、「授業が難しい理由」という設問の回答において、授業内容が難しい・授業のスピードが速い・先生の説明が分かりにくい等の項目で大幅に数値が下るといふ成果が得られた。これは、iPadを有効に活用したこととともに、授業で「めあて」「まとめ」をマグネットで貼り付け、授業の目標を明確にしたからであろうと考える。	事業 達成率	50%
	授業実践研究により、ICT機器 (iPad) を利活用することで、生徒の学習に対する興味・関心が高まり、さらに意欲が喚起されることは検証できた。しかし、家庭学習時間の少なさに見られるように、生徒が主体的に学び、学力が向上するという成果を得るまでには至らなかった。	総合 達成率	70%
今後の課題	ICT機器の利活用だけで、生徒の主体的な学びや学力向上に繋がるわけではないということが授業実践研究により、検証できた。そして、iPadの利活用が、生徒の思考・判断・表現を伸長する要因になり得ることも検証でき、iPadをより有効に活用するための教材研究や開発が必要であるという課題も明確になった。今後は「授業改善」を柱に据え、紙媒体とiPad双方の優れているところを上手く活用しながら、生徒たちが、お互いに考えを伝え合ったり、協力して課題を解決したりするなどの言語活動を充実させる授業実践を持続していくことが重要である。		
学校自己評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1	
	評価の理由、次年度以降の継続性等	この事業は、単にiPadの利活用方法の研究にとどまらず、「授業改善」を柱に据えて授業研究を進めてきた。著しい成果は見られなかったが、上記のような課題を解決する糸口が見えてきた。今後も商業高校として人材育成を図るため、体系的で特徴的なカリキュラムの編成を進め、生徒の学力向上につながる指導方法や評価方法の授業研究をさらに継続して推進していきたい。	
主管課評価	5段階評価	5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1	
	見直しの余地 改善提案等	<p>iPadを活用した授業改善・基礎学力の向上を目指すという新しい取組の中で、多くの教科・科目において、ICTの効果的な活用方法が研究され、授業実践されていることは、非常に評価できる。また、アンケート結果で、授業内容に興味を持った、学ぶ意欲が高まった、授業に集中できた、理解しやすくなった、自分で発表する力が付いた、という回答も増えている。</p> <p>一方、来年度以降に向けた課題は、次の2つに整理できる。</p> <p>①主体的な学びをどう生徒に身に付けさせるのか。 高校段階では、基礎学力はiPadの活用ではなかなか身に付かず、しっかり考え、反復しながら、家庭学習をしていくことで初めて身に付いていくものである。商業高校ならではの課題の与え方など、iPadを使った学習・授業を家庭での学習の増に結びつけていく方法論を、今後とも研究していただきたい。この1年間の研究では、家庭の学習時間は増えなかった。この点が大きな課題である。</p> <p>②自分で発表する力にどう結び付けていくのか。 思考力・判断力・表現力を伸ばしていくために、iPadを活用して、プレゼンを企画したり、相手を説得するなど、生徒たちのトータルとしての力に結び付けていく、また、ペアやグループで話し合っ、より良いものを全体で考えて企画して、発表、評価していく、そういう取組に向けて、iPadを使って商業高校ならではの活用として考えていただきたい。</p> <p>次年度以降、こういった課題に向き合い、玉島商業高校からICT活用の波を起こしていただきたい。</p>	

## 平成26年度県立学校経営予算プレゼン卒業事業レビューシート

5段階評価		5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
委員評価	指摘・指導・助言	<p>高校生がiPadを活用することで、どの程度関心や興味を引き出し、学習効果をもたらすのかということについては、これまであまり知見が得られていないと思われるが、この課題について正面から立ち向かい、今後の研究開発のポイントとなる多くの成果や課題が見いだされたことは意義深い。iPadの活用と併せて『授業改善』というより難度の高いテーマにも取り組み、その過程で非常に多くの課題が見い出されたことも大きな成果として評価できる。次年度以降この1年間で見いだした課題に対して、取組を進めることでさらなる発展が見込まれると考える。</p> <p>商業高校という実業の世界で生きる子どもたちにとって、おそらくICTの活用は非常に強い力を発揮するものであるが、今回のiPadの活用が、当初の目的の1つであった地域との連携の部分にまで及ばせられていれば、さらに大きな成果が確認されたのではないかと考える。</p> <p>生徒たちの生活は、iPadをはじめとした情報端末を用いて様々なものにつながっている。それを学校の中でどのようにコントロールして、望ましい使い方を身に付けさせていくのかというのが、生徒たちが将来、ビジネスの世界で生きていく上でも重要なことであると思う。そのためには、きちんとしたカリキュラムを設計し、その中で情報に関するスキルや情報モラルを身につけさせていきたい。是非、そういうモデルの開発も今後は視野に入れていただきたい。</p> <p>また、今年度の取組は、こういった新しいことに取り組む際に、教員個々人の力に頼ることなく、組織・グループとしてできるような体制へもっていくためのきっかけになったのではないかとと思われるので、今後も一層組織的な取組として進めていただきたい。</p>

- ※評価の基準
- 5 見込みを大幅に上回る
  - 4 見込みを上回る
  - 3 見込みどおり
  - 2 見込みを下回る
  - 1 見込みを大幅に下回る